

**国際理解教育と
文化交流の推進**
—国際性のある心豊かな
人間の育成をめざして—
県立須賀川女子高等学校

一、本校の現状

本校は、一学年六学級の中規模普通
高校である。生徒は概して温和で、素
直であり、学習に部活動に真剣に取り
組んでいる。生徒の進路は約六十パー
セントが進学、四十パーセントが就職
で、この傾向はここ数年変わっていない。

学校創立二十六年目を迎えた歴史の
新しい学校であるが、昭和四十四年か
ら地元の須賀川ロータリークラブと提
携して、オーストラリアの高校と定期
的に留学生交換を実施している。

国際交流が年々活発化していく現代
にあつて、本校は六十年・六十一
年度の二年間にわたり、福島県教育委員
会より「国際交流」研究校の指定を受
け、国際化時代にふさわしい高等学校
教育のありかたを模索して研究を実践
した。

二、研究主題

国際理解教育の研究ならびに文
化交流の推進
—国際性を身につけた心豊かな
人間の育成をめざして—

三、主題設定の理由

「進んで平和的な国際社会に貢献で
きる日本人を育成するため、その基盤
としての道徳性を養う」ことが、高等
学校学習指導要領の前文に掲げられて
おり、国際化社会の進展に対応できる
国際感覚を身につけた人間の育成が社
会的に要請されている。本校では「創
造的思考力を高め、国際的視野に立つ
て民主社会の発展に役立つ人間を育成
する」ことを教育目標の一つに掲げ、
時代の要求にこたえようと努力している。
今回の指定研究を契機とし、国際化時
代の高等学校教育のありかたを求めて
研究主題を設定した。

四、研究計画

(一) 研究内容

次の研究内容によって研究主題の追
究を図った。

① 社会科、英語科などの各教科では、
国際理解を図るための教材内容と指
導方法の研究を推進する。

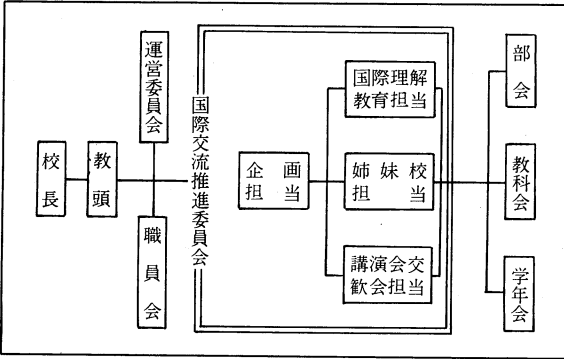
(二) 研究方法

- 次の研究方法によって研究内容を実
践した。
- ① 教職員を対象とする校内の研究会
や研修会を持ち、教職員の国際理解
や文化交流に対する認識を深める。
 - ② 主として、オーストラリアから日
本に留学している高校生を招待し、
生徒会活動を通して交歓の機会を設
ける。
 - ③ 駐日オーストラリア大使館員の派
遣を要請して、講演会を実施する。
 - ④ 英語指導主事助手その他を招へい
し、国際理解教育のための研究を行
い、講演を実施する。
 - ⑤ 日本語の講座を持つオーストラリ
アの高校のなかから姉妹校を選定し、
交流を図る。
 - ⑥ 校内に「国際理解コーナー」を設
け、資料を展示して、生徒の国際的
興味や関心を高める。
 - ⑦ 須賀川ロータリークラブやオース
トラリア大使館などとの連携を密に
して研究を推進する。

(三) 研究組織

① 「国際交流」の研究のために、校内
に研究組織を作った。(図1参照)

図1 国際交流研究組織



五、国際理解教育

(一) 社会科

社会科における国際理解教育の研究
は、社会科の各科目によってそれぞれ
異なるアプローチのしかたがあるが、
今回は、各科目に共通するテーマとし
て「異文化の理解」のみを取りあげて
研究を進めた。

「およそ、それぞれの国の文化には、
人種や国境を超えた普遍的な要素と、
その国の民族に特有の独自の要素が含